

校内研究における統計解析の活用と基礎学力向上の取り組み

大分県大野郡大野町立大野中学校

みしろとしや
三代俊也

【実践の内容】

学校とPTAが一体となり生活習慣と学習習慣を身につけさせることから始めた基礎学力の向上の取り組みと全教科・全教諭による日々の授業での細かな工夫の継続が実を結んだ。さらに、生徒の実態を統計解析の手法を使い生徒が必要としている力を把握し、生徒に応じた指導を工夫していくことでさらに基礎学力を高めることができたようになった。

【論文内容の紹介】

1 生活・学習習慣を定着させる取り組み

学力向上のための基礎はきちんとした生活習慣や家庭での学習習慣にあると考え、生徒会生活部や家庭と連携して朝ごはんを必ず食べる取り組みや、保護者と一緒に行う挨拶運動、学校が出すプリントがきちんと家庭に届いているか確認する取り組みを行った。

2 授業での工夫

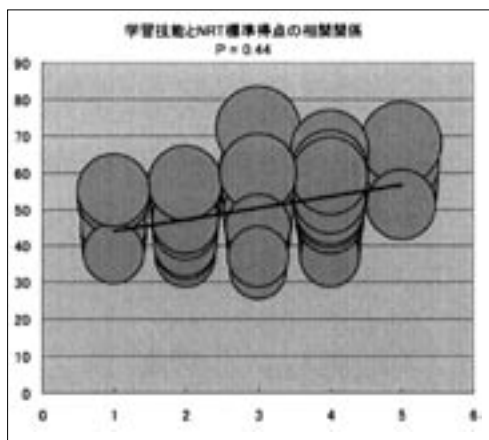
各教科で「基礎学力向上のための具体的取り組み」を公開し、1年間継続して実践するようになった。

自分の教科ではこういうことに取り組みますと宣言して実践しているので、どの教師も責任と自覚を持って継続して取り組めた。また、やるべきことをはっきりさせているので実践に空白が生まれななど効果があった。

3 統計解析の手法を使った実態把握

今年度は学習適応検査と学力判定テストを実施し、生活・学習習慣の定着度と学力の定着度には関連性があるかどうか調べた。

データから生徒は学習適応度と学力とは正



の相関関係があること、特に学習態度がよい生徒や学習技能がよく身につけている生徒ほど学力が高いこと、学習時間や睡眠時間は学力と関連性がないことが数値として示された。

3 学習技能を高める実践

学習技能を高めるために英語科の授業の中で次のような実践を行った。

(1) Bノートと小テストをリンクさせる

宿題として家庭で練習すべき内容を示しておいて、次時の授業での小テストの問題とする。生徒はポイントをしっかりと練習するようになった。

(2) ノート鑑賞会

お互いのノートを回覧してノートのとり方が上手な生徒はどのようにノートをとっているか学習する会を持った。

(3) 苦手な反復練習に慣れさせる

地道な練習を嫌がる生徒に反復練習を技能として身につけさせるために、基本文や単語を5回書いて覚えるスタイルのプリントを授業の最後にさせるようになった。

4 成果と課題

生徒の現実から離れることのないよう実態調査の分析を行い、生徒の実態に応じた実践を心がけてきた。こうした取り組みの結果、基礎学力が向上しただけではなく、生活にけじめができ、生徒会活動も活発になった。